

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 教養を高めるとともに社会規範にのっとり確かな判断ができ、自立できる若者の育成を図る。
- 2 現代社会における農業の意義や役割についての理解をもとに技能や科学的な知識を習得させるとともに専門性を高め、正しい勤労観や誠実な態度、創造性を身につけた社会に貢献できる若者および人間性豊かな若者の育成を図る。
- 3 生徒、保護者から信頼され、地域社会から必要とされる学校をめざす。
- 4 すべての教職員及び生徒があらゆる人と、ともに学びともに生きる社会づくりをめざす。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と定着
 - (1) 各普通教科（英語、数学、国語）の学習内容の定着はもとより、課題解決能力の育成を図り、高度な専門技術、知識習得へつなげていく。
 - ア 基礎学力の充実
 - 1年次に外部の基礎学力調査を使用し、英語、数学、国語の学習内容の復習を行い専門高校生に必要な基礎学力を身につけさせる。
 - *1年次の普通教科（特に英語、数学、国語）に関する苦手意識をなくす。外部基礎学力調査の進路指導への活用。
 - イ 農業に関する専門的知識向上のための授業改善
 - 各科、各コースで育てたい生徒像を明確にする。その実現のために必要なカリキュラムの開発、授業方法、普通教科や他の教科との連携を行う。
 - 特にSSH事業や課題研究の時間を有効に使い、課題解決能力の育成を図る。また、定期的な研究授業の開催の定常化を完成する。
 - *研究授業の定着及び授業見学週間の設定と全教員の参加。SSH事業の校内での更なる発展、広がり。
- 2 キャリア教育の充実と進路実現
 - (1) 専門知識・技術を習得させ、それを生かした進路指導、進路実現をめざす。
 - ア 早い段階から進路についての意識づけを行う
 - 進路指導部、農場部及び科が連携し、生徒の進路指導方針（就職先、進学先など）を具体化する。
 - 3年間の早い段階から、システム化された進路指導を行い、就職、進学希望者の確定を行う。
 - 就職希望者には、農業現場も含めた企業実習、見学を企画し望ましい勤労観・職業観を身につけさせる。
 - 進学希望者には、確実な学力を身につけさせるため、選択科目の改善などカリキュラムの編成を考えるとともに、論文、英語、数学、国語などの力を高めるための指導体制をつくる。
 - *就職率100%（関連産業への比率は高いほどよし）、国公立大学への進学者 毎年5名以上を達成する。
 - イ 開かれた学校づくりを通して生徒の社会人としての成長を図る
 - 施設、設備の整備、改修を進め、より快適な校内環境の実現をめざす。
 - 校地の整備を行い、めぐまれた校庭・農地等を地域に開放し、地域の住環境への貢献（定期的な販売実習、庭木の手入れ、公共施設の花装飾など）及び地域の人のふれあい（園芸講習会、技術指導など）により、生徒の心の成長やコミュニケーション力の強化を図る。
 - また、平成27年度 学校経営推進費事業により、実習で生産した農作物の販売や情報を発信するアンテナショップを設置・運営する。生産から販売までの6次産業化技術を体験させることにより、生徒の就職意欲や進学意識向上につなげる。
 - *生徒主体の地域貢献活動の展開（全生徒の30%以上の参加）。
 - ウ 農業クラブ等研究活動の活性化とSSH事業の確かな成果をめざす。
 - 農業科目とも大きく関連する農業クラブを更に活性化させることにより、生徒の知識、技術を向上させ、達成感を多く味あわせることにより科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。また、関連分野を中心に各種資格の習得をめざす。そのために、SSH事業を完成に向けて推進するとともに、農場部が中心となり各科における農業クラブのあり方の現状を把握し、校内的な位置づけを明確化する。
 - *農業クラブ全国大会大阪大会（H28）の成功と大阪の上位入賞をめざす。各課題研究班、農業クラブは各種発表会、競技会などに1部門以上にエントリーする。
- 3 中途退学・不登校の減少への取組み
 - (1) 中学校、家庭とのより一層の連携を図る
 - ア 総務部を中心に今まで以上に中学校との連携を強化するとともに、体験入学や学校説明会などの更なる改善、充実を図り、不本意入学生徒を一人でも減らす。入学生徒に関しては少しでも多くの情報を中学校、家庭から早い段階で入手し、初期段階での指導に生かす。そのため、中学校訪問や懇談会などを企画する。
 - *日頃からの中学校・家庭との連絡、協力体制の構築
 - (2) 教育相談体制のさらなる充実を図る
 - ア 外部団体との連携システムを構築するとともに教育相談委員長を中心とした教育相談委員会を強固なものにする。生徒の情報をこまめに収集し、的確に対応する。
 - *生徒がいつでも相談できる相談員の常駐体制の構築
- 4 生徒の生活規律を正し、学ぶ環境を作り上げる。
 - (1) 学習に集中できる環境づくり及び自主的な授業態度改善を図る
 - ア 生活指導部と学年団が連携し、授業中の私語、机上の不要物禁止を更に徹底するとともに、生徒指導上の問題にきめ細かく対応する。現在行われている授業中注意3回制度を有効に生かし、全ての教員の取組みや授業が有意義に進行するようにする。また、そのためにも教室の美化をはじめ雰囲気づくりにも取り組む。
 - 日頃から生徒の礼儀（挨拶、言葉づかい、服装）について全教員で指導する。
 - *すべての授業が整然と行われ、勉学に活気のある教室にする。生徒アンケートにより、授業環境満足度を調査し、平均80%以上にする。
 - *学年団体制をさらに発展させ、学年団の中に主要分掌のミニ支所があり、各分掌と綿密に連絡をとれるようにする。
 - (2) 学科、校内組織の再編成を行う
 - ア 各生徒の将来への目標を早い段階から決定させ、それを実現させるべく、教員の少人数グループを活用し、より綿密に丁寧な指導体制をつくる。
 - また、農業の6次産業化や周辺産業への進路にも対応する。そのため、現在の実業3科の教員を5グループに分け、より綿密に生徒指導に携われるようにする。そして、現行の3科を以下の5科（仮称）に再編成することについての模索を行う。
 - 草花園芸科――草花の栽培技術・流通・デザインについて学習し、生活に草花を取り入れる技術者を育成する。
 - 都市園芸科――園芸の栽培技術・流通・安全・環境について学習し、都市園芸を発展させる技術者を育成する。
 - 環境緑化科――緑化・造園技術・景観設計について学習し、生活環境の向上に貢献できる技術者を育成する。
 - 生命科学科――バイオテクノロジーと食・環境との関連を科学的に学び、バイオ技術を食生活環境に活かす人材を育成する。
 - 食品科学科――加工食品の創作・改良を通じて食品を科学的に学び、より良い食生活環境を追究する人材を育成する。
 - *生徒一人一人の個性を生かしたきめ細やかな専門教育が行える。各科の生徒の希望進路達成度を80%にする。
 - イ 学年団を更に有効に機能させる。すべての面で担任をサポートできるように、学年主任を中心に各分掌と連携をとれる体制をつくる。
 - *若手、中堅、ベテランが生徒指導のために、協力して職務を遂行する。
 - ウ 古い体制を見直しつつ将来のあり方を常に検討する。
 - *校務検討委員会の存在を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<生徒> ・満足度の高い項目 学校の特色 実験・実習設備 就職に有利 楽しい あいさつ 学校が楽しい など ・満足度の低い項目 生徒会活動 ボランティア活動	<第1回>6月4日 委員からの意見 ・農業クラブ全国大会の成功を期待する。ぜひそれを生かし、アピールの材料にしてほしい。 ・SSH事業について、生徒にそれだけの費用を費やしているのだから、その効果もしっかり検証する必要がある。（費用対効果）進学実績にもつなげてほしい。

<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足度の高い項目 ほとんどの項目で評価が高い 特に特色ある教育、子どもの積極的な行事参加は評価が高い <p><教職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の高い項目 教育相談体制 学校の特色 学校行事の工夫 学習指導 地域連携 進路指導 など ・評価の低い項目 部活動活性化 評価法 AV機器活用 校内人事 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立3名は合格者を出してほしい。 ・普通教科の教員も実際に農場へ出て生徒と触れ合ってはどうか。 <p><第2回>11月1日 授業見学を中心に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の造園基礎技量は、確実に上がってきている。 ・技術と知識のバランスも必要なので、授業内容に工夫がいる。 ・目標を持たせて学びを継続させることが必要。 <p><第3回>3月4日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業クラブ全国大会の成功は生徒の自信につながったと思う。ぜひ、後輩への指導に繋げてほしい。 ・学校全体で目標を共有している学校は強い。実業教育をどうするのか、しっかりと強い目標が必要。 ・基礎的な教育の面と地域貢献、SSH発表会、イベントへの参加などの活動の全体的なコーディネートが重要。 ・中学生に行きたい学校というイメージを与えることが重要。事前の中学生の希望調査の値が低いのが心配である。 ・学校教育自己診断の結果を他校と比較することができればしてほしい。 ・体験入学のメニューの工夫が必要。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と定着	<p>1) 各普通教科(英語、数学、国語)の学習内容の定着はもとより、課題解決能力の育成を図り、高度な専門技術、知識習得へつなげていく。</p> <p>ア 基礎学力の充実 イ 農業に関する専門的知識向上のための授業改善</p>	<p>(1) ア・継続が決定した外部テストを有効活用し、新入生の学習習慣の定着をめざす。最良の実施形態を模索し、次年度以降の基礎学力向上取組も検討する。</p> <p>・3年生は1学期を中心に一般常識問題など就職対策に取り組ませる。</p> <p>イ・授業見学週間、研究授業の体制づくりを引き続き行う。</p>	<p>(1) ア・生徒の成績データを分析し、向上が見られたか。(各教科の前後の成績比較により判断) ・担当教員の補助指導体制が構築できたか。 ・就職希望者の1次内定率が向上できたか。(H27 81.7%) イ・5割以上の教員が他教員の授業を1回以上見学できたか。 ・研究授業参加者数が実数20名以上。</p>	<p>(1) ア・本校の入学生の学習能力や学習意欲については高いものから低いものまで幅広く存在している。過去5年間外部テストを使用した基礎学力向上に取り組んできたが、その効果は上記の理由により生徒により差が明らかにある。そこで、次年度は普通教科の授業内で自主教材により継続的に基礎学力向上に取り組むことにした。そして、専門高校としての基礎学力を育むため、新たに学校設定科目「研究基礎」を設け、各科での上級学年での研究活動につなげることに変更する。普通教科と役割を分担し、専門高校らしい基礎学力向上をめざしたい。(◎) ・基礎学力(7限目)の指導は各クラスの担任と副担任が担当した。多くの教員が入れ替わり担当した時より確実に行き届いた指導ができていた。取組進度が遅い生徒への対応などは個別にはあったが学年全体としての組織化までは至らなかった。(○) ・就職希望者の1次内定率は86.6%と昨年より大きく向上させることができた。面接指導をはじめ、進路指導の成果と思う。(◎) イ・実業科の教員は日頃よりチームティーチングの形態の授業が多く、改めて他の教員の授業を見るという習慣がない。その影響があり、5割という目標には達していない。しかし、それぞれの教科、教員の教授法は特徴があるので今後も見学する機会が増えるように企画を練っていく。(△) ・3名の初任者教員と4名のミドルリーダー教員による研究授業を実施できた。述べ54名の教員が見学に参加し、後の研究協議も実施できた。ただ、まだまだ教員全体に広がっている状況ではない。(○)</p>
2 キャリア教育の充実と進路実現	<p>(1) 専門知識・技術を習得させ、それを生かした進路指導、進路実現をめざす。</p> <p>ア 早い段階から進路についての意識づけを行う イ 開かれた学校づくりを通して生徒の社会人としての成長を図る ウ 農業クラブ等研究活動や生徒会クラブの活性化とSSH事業の確かな成果をめざす。</p>	<p>(1) ア・外部基礎学力進路調査を継続使用し、生徒の進路決定への一つの判断材料とする。担任と課題研究担当実業科教員などが連携をとり、早い段階から生徒の進路実現に向け動きをとる。進学希望者へは普通教科を中心に補習体制をつくる。</p> <p>・自立支援コースの進路指導の体制づくりを行い、自立支援コース生徒の進路実現を模索する。</p> <p>イ・定期的な販売実習、公共施設などの緑化管理技術指導などを本年度も継続して実施することにより、本校の地域での役割を明確にするとともに生徒の社会性を伸ばす。設置される校内販売所の有効な運営体制について農場部を中心に具体的に運用を始める。</p> <p>ウ・農業クラブ全国大会を成功させ、大阪府の農業教育の充実を図る。また、上位入賞をめざし課題研究班や課外農業クラブ班は、各種競技会やコンクールなどに積極的に参加する。生徒会クラブ加入率を少しでも高め、生徒により学校に目を向けさせる。5年目のSSH事業を推進し、2期目申請への模索を行う。</p>	<p>(1) ア・外部基礎学力進路調査の有効利用の検証ができたか。 ・普通教科の補習体制が機能できたか。 ・進路先未定者0。学校全体で就職先開拓、進学指導が昨年度以上できたか。 ・自立支援コース生徒の進路実現ができたか イ・例年通りの販売実習回数や地域貢献数が維持できたか。校内販売所の1年目が順調に機能したか。(H27 定期市11回、校外販売10回、地域貢献4件) ウ・全国大会が無事運営できたか。 ・プロジェクト、意見部門で大阪代表1以上。競技会やコンクールで優秀賞1部門以上。 ・クラブ活動活性化WGを組織させ、加入率を</p>	<p>(1) ア・外部基礎学力進路調査を有効に使うために校内で担任向けの説明会を企画した。また、保護者や生徒との懇談でこのような部分で進路決定の1材料になることを進路部からも説明を行った。実際に生徒の進路決定に役立てた担任もいたが、まだまだ担任任せで有効活用しては言えない。このシステムを持つ多くのデータを生徒の進路に有効に利用できるよう今後も学年団と検討していく。(△) ・英語検定受験希望者への英語科による補習、漢字検定や論文指導への国語科の取組みなど数は多くないが個別に実施されている。特に本年度若手教員が進学希望者から依頼をうけ、2年生の早い段階から数学、英語の補習を行っている。(○) ・本年度3年生の自立支援コースの生徒の1名が高倍率の超難関企業への就労することができた。(◎) イ・農業クラブ全国大会の運営で時間がない中、課題研究や総合実習、農業クラブ活動で地域との連携が例年通り行えた。大阪府でのフラワーフェスティバルでの花壇制作、伊丹空港でのパタフライガーデン制作、近隣市開催の祭りイベントや農業祭への出店など地域と密着した活動によって生徒に大きな自信を与えることができた。特に、豊中市から依頼を受けて実施した寄せ植え講習会では、生徒が指導役として活躍し高い評価を受けた。 ① 販売実習・上記の外部イベントでの販売実習に加えて日頃の授業内で様々な販売活動も展開している。野菜班の月1の定期市、野菜、果樹班の一輪車による校外販売など述べ40回を超える。(○) ② 地域貢献・寄せ植え講習会(豊中市)、地域の公園管理など、園芸に関する相談対応、そぼ部の活動、野菜部の収穫体験など多数の地域貢献が展開されている。回数は述べ30回を超える。(○) ウ・農業クラブ全国大会の運営にあたり、担当教員、生徒数とも例年大会に比較して圧倒的に少なく、多くの困難が予想されたが、全生徒、教員で見事な成果を得ることができた。外部からも高い評価を多く受け、生徒や教員に大きな自信となり、本校の外部へのアピールもできた。(◎) ・プロジェクト発表、意見発表で大阪代表は出せなかったが、全国大会農業鑑定競技会園芸の部で1名が優秀賞を受賞した。農産加工学研究会のそぼ甲</p>

府立園芸高等学校

			<p>高められたか。(H27 農業クラブ 32.2% 生徒会クラブ 31.6%)</p> <p>・報告書を作成、HPへのアップができ、成果を発信できたか。2期目申請への方向ができたか。</p>	<p>子園での最優秀賞、環境緑化科の生徒が技能五輪全国大会造園の部で敢闘賞、ビオトープ部が森林、林業研究発表大会で審査員賞など多くの競技会、発表会に積極的に参加し高い評価を受けた。(○)</p> <p>・クラブ活性化WGが企画した新入生への入部勧誘活動の成果で昨年より多くの生徒が入部した。(5月現在 農業クラブ 67.1% 生徒会クラブ 39.2%) (◎)</p> <p>・SSH事業で農業に関する研究に取り組む高校生英語研究発表会を企画し、他府県からも参加者を得て開催できた。これらをはじめ5年間の総まとめを現在行っている。また、2期目申請行準備も整った。また、当初計画には入れてなかったが、SPHへの申請も行えた。(◎)</p>
3 中途退学・不登校減少への取組	<p>(1) 中学校、家庭とのより一層の連携を図る。</p> <p>ア 体験入学や学校説明会などの更なる改善、充実を図る。</p> <p>(2) 教育相談体制のさらなる充実を図る</p> <p>ア 教育相談委員会を強固なものにする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・体験入学や学校説明会の開催時期、回数、内容を地域中学校などの行事なども考慮にいれ、検討する。</p> <p>・中学校へ高校側から働きかけ、出前授業などの回数、内容を強化する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・個別支援カードを有効に活用し、入学生に関する情報を早くからつかみ指導にあたる。入学後は保健室や相談委員会からの情報をもとに、担任、学年団とも連携をとり不登校対策へ積極的に動ける組織にする。</p> <p>・きめ細かい指導を行い、早い段階から生徒のつまづきに気づき、相談、援助を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・昨年以上の計画ができたか。(内容、回数など)</p> <p>(H27 体験1回、学校説明会3回、ミニ体験6回、中学校での説明会4校、出前授業3校)</p> <p>(2)</p> <p>ア・相談体制を充実させ、中退者や転学者の数を減らすことができたか。</p> <p>H27年度</p> <p>退学 5名</p> <p>転学 7名</p>	<p>(1)</p> <p>ア・体験入学1回、学校説明会2回、ミニ学校説明会4回、豊中市進路フェアへの参加、中学校での説明会2回、出前授業1回など積極的に広報活動を実施した。以上に参加した中学生の総数は578名と昨年を14名上回った。HP更新も例年以上に積極的に行えた。(ブログ更新中心に) (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・教育相談部を中心に担任、学年団と連携を緊密にとりながら各生徒の実情に合わせた指導が行えた。(○)</p> <p>退学 11名</p> <p>転学 11名</p>
4 生徒の生活規律を正し、学ぶ環境を作り上げる。	<p>(1) 学習に集中できる環境づくり及び自主的な授業態度改善を図る</p> <p>ア 授業規律の確立</p> <p>イ 環境美化</p> <p>(2) 学科、校内組の再編成を行う</p> <p>ア 学年団を更に有効に機能させる。</p> <p>イ 旧い体制を見直しつつ将来のあり方を常に検討する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・すべての授業で整然と授業が展開され、生徒が自主的に取り組める授業風土をめざす。</p> <p>イ・農業クラブ全国大会に向けて、校内外の美化に努める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学年団を機能性のある実行組織になるよう学校全体として取り組んでいく。特に、学年主任のあり方や分掌との連携方法について本校でのスタイルを確立する。</p> <p>イ・学校運営会議や校務検討委員会を機能させ、現存する旧体制を見直し、現状に合ったものに変えていく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業に関する問題事象数は0に近づけたか。</p> <p>イ・生徒会、農業クラブを中心に美化運動が展開できたか。</p> <p>(2)</p> <p>ア・より良い学年団が構成できたか(昨年度と同様の教員へのアンケートを実施。昨年以上の評価を得たか。)</p> <p>イ・現状の課題を発掘し、改善策を出せたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業に関する生徒指導案件は0である。体育を中心に生徒が自主的に取り組む授業が展開されており、今後も期待できる。(○)</p> <p>イ・農業クラブ全国大会で1番大きな競技である農業鑑定競技会が本校会場となることを踏まえ、各部署で早い段階から整備を進めることができた。特に広大な農場やエントランスの部分には農芸員が積極的に整理、整備に関わり見事な環境を整え、全国からの来校者を気持ち良く迎えることができた。生徒も農業クラブや生徒会役員を中心に清掃活動を活発化させた。現在も定期的な校内外清掃活動を行っている。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学年主任とは昨年以上に情報交換の場を持てた。各分掌との連携のあり方など、まだ課題はあるが3学年主任とも役割を果たしたと思う。学年団についてのアンケートを昨年同様の項目で実施した。4段階で評価したものを上位2段階の割合を肯定率として算出し、昨年度と比較した。朝のSHRやLHRについては、坦副で役割を明確にしているクラスが多いため、値は下がった。しかし、学年団として一番めざしている生徒情報の共有や相談体制、機能している感は昨年度よりとても高い値を示したことは評価したい。(○)</p> <p>イ・本年度既存の体制の見直しづくりには着手できなかった。今後の課題としたい。(△)</p>